夏の保健・衛生読本

子供と共に親も禁止だけが能でない

水泳

長梅雨も漸く明け、いよいよ夏の真盛りとなったが、八月は子供の水遊びや水泳が最も盛んとなり、従って水による事故も一年のうちで一番多い時期である。昨年の八月の二、三、四、五、六、七、八月の八カ月の水による死亡者があったが、これは十、八才未満の子供だけの数である。事故の内訳をみると幼児の事故は池、プール等の傍で遊んでいるうちに誤って転落したものが大部分であるが、なかには半数は魚つりに行って事故を起しているものもある。

小学生以上の事故は友達と一緒に水泳に行き、遊んでいるうちに単独行動をとったとか、友達が多い中で泳ぎて適当な処位がとれなかったため、最られる事故が多い。子を持つ親としてもつとも大人たちも弱点のある子供達のために、次の点を充分注意し、水の娯楽から守ってやるようにしたいものである。

水泳　は危いからといって禁止するだけではかえって事故の原因となる。禁止するだけでは、子供に秘密の行動をとらせることになって危険である。ときには親が一緒になって子供の欲求を満足させてやることが必要である。

幼児　には立ち入り禁止の区域を定めて、親の注意など意味がない。川や下水溝附近での遊びには、親がよくみてやるとか、放任しないでなるべく眼の届く範囲内で遊ばせること、また他所の子でも危険な場所は絶対に避けること。

子供　たちが泳ぐ場合は、危険な場所は絶対に避けること。同伴者と別な行動をとらないこと。種備運動をとること。長時間水の中にはいっていないこと、ボートに乗っているものは、その中でふざけたり飛だりしないこと。

幼児　には立ち入り禁止区域を定めて、親の注意など意味がない。川や下水溝附近での遊びには、親がよくみてやるとか、放任しないでなるべく眼の届く範囲内で遊ばせること、また他所の子でも危険になる高い発熱、頭が痛い、②ノドがおかされて、熱が出る　③からだがだるい　④手足の関節が痛む　⑤寒気がする　⑥嘔吐　⑦胃腸の不調　⑧たべものの簡単なみわけ法を研究し、酵度の悪いものやよごれているものは、調理材料はいつも新鮮なものをえらび、保存は衛生的にすること。

食中毒　流行性感冒は寒い時だけではない。東京を中心として広がった「東京ビールスA五七」といわれる流感は、県内にも流行しも臨時休校するところも出た。

流感は今年のように、夏の流暖なかぜから心掛けによって予防の注意　①人の集まるところにはできるだけ行かない（マスクをかけて）②帰宅したら必ずウガイをする　③頭が痛いと思ったら早くやすんで十分休養をとる　④医師の診断を早期に受ける。

とにかく大人も子供も、健康人ほどかかりやすいといわれる流感から絶ったの。自らの注意が最も大切である。

流感はびこる

帰宅したら必ずウガイ

食中毒

食中毒の多くなる時期になって、きた。最細菌が繁殖するに適する条件がそろうからだが、この食中毒に注意しましょう。①いつも台所や冷蔵庫、戸棚などのたべものをしまっておくところを清潔にして置くこと。②おさかな、油虫、はえなどがたべものに近よらないようにすること。

毎年夏になるといろいろな家畜の伝染病が流行するが、原因はいろいろあげられるが、おもなものを数の項外によって伝染するもので、第一に家畜の流行性脳炎があげられる。

この病気は人にもつうと日本脳炎と呼ばれるもので、人畜共通の悪性伝染病だが、家畜では五才以下の若い馬がかかるもので、熱が出ておかされたりして起立不能になったり、あばれたりする。

牛や綿羊山羊は感染しても症状が現われないが、生まれた子が脳を侵され大脳委縮して無脳症になったり、ときには、はねたり、ひきつけたりして起立不能になったり、あばれたりする。

豚では五月から七月頃まで、に妊娠した豚がこの病気にかかりやすく胎児は死んで黒褐色のミイラのようになり、いわゆるいもぶたとなって生れるが、ほとんどが死産となるが、この病気の予防には、予防注射をすることが大切である。それよりも確実な方法として、予防注射を受けておくことが一番。

次に蚊帳があるが、これは本年産の若鶏は八月中旬に予防注射をすることが、この予防には、予防注射もあるが、まず蚊の侵入を防ぐ